

物語
の道

「青べか物語」

三番瀬、行徳漁港



「あれはそうさな、うちのおつかあが

死ぬちよつとめえだっけかな、

あのこが子供を伴れて、

徳行からおらの船へ乗っただ、

伴れているのは四つくれえの女の子で、

おらあその子を抱いて

渡り板を船まで渡してやっただ、

あのこはあとから渡つて、子供を抱き取りながら、

すみませんねえつて云った、おらも云っただ、

いまでも覚えてるだが、

今日はいいお日なみですねつてよ」

幸山船長は口をつぐみ、

岸の松林のほうをじっと見まもっていた。

山本周五郎著「青べか物語」より



市川歴史博物館に展示してある「大べか」。